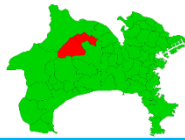


令和5年第1回定例会開会

愛川町・清川村選出神奈川県議会議員



佐藤 けいすけ

令和5年第1回定例会が2月13日に開会し、3月15日まで31日間の会期で行われます。初日は令和5年度当初予算案が示され、水防災戦略の改定や当事者目線の障がい福祉、観光客の安全対策などこれまで佐藤や会派から提言した内容がさまざまな形で反映されました。本号ではその概要をお示するとともに、改めて県の役割等についてお知らせします。

令和5年度当初予算の概要が発表されました

県有施設の維持運営費の増や職員定年引上げに伴う基金積立等で計370億円の財源不足でしたが、4年度からの財源活用と5年度の事業見直しにより全会計の予算総計は過去最大の予算規模となりました

持続可能な神奈川の推進 総計4兆6,815億円

① 新型コロナウイルス感染症対策への対応

コロナとの共存を前提とした
「持続可能な医療体制の構築 2,099億円 (△1,083億円)



② 喫緊の課題への対応

- ・脱炭素社会の実現 62億円 (+27億円)
- ・人口減少社会における次世代育成の取組 300億円 (うち基金積立230億円)



③ 当事者目線の障がい福祉の実現

「神奈川県当事者目線の障害福祉条例～ともに生きる社会を目指して～」に基づく取組の実践 1.5億円 (拡充分)

④ 県民生活に直結する事業等の推進

- ・「神奈川県水防災戦略」の改定 639億円 (戦略の計画額 現行1,374億円 → 改定後2,142億円)
- ・県立教育施設整備の推進 302億円
- ・県有施設の老朽化対策 50億円



⑤ 基金への積立(4年度2月補正)

- 重点的な課題に対し継続的に取組むための基金積立
- ・脱炭素社会の実現に向けた取組 135億円
 - ・人口減少社会における次世代育成の取組 230億円
 - ・県有施設(教育施設以外)の老朽化対策 77億円

4月から小児医療費助成が拡充!

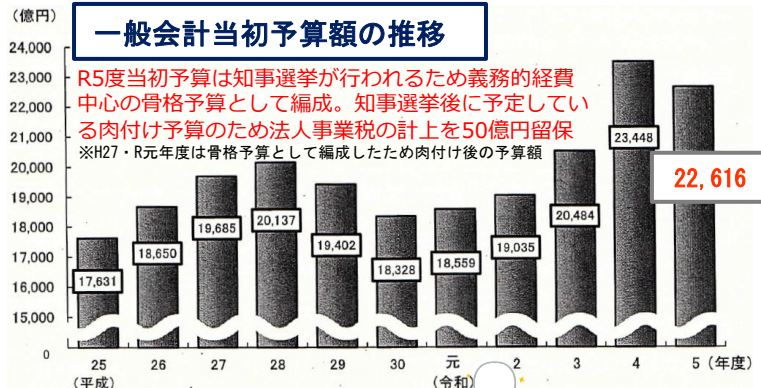


県は市町村が実施する小児医療費の助成について通院した際の補助対象年齢をこれまでの就学前(6歳)までから、小学校卒業(12歳)まで引き上げます。市町村は既に自主財源で拡充を図っていますが、今回県が助成を拡充することで各市町村の子育て施策を後押しします。

《小児医療費助成費用当初予算》

令和4年度 36億5,550万円 → 令和5年度 60億8万円

県は各市町村に対し、拡充により浮いた財源を子育て支援の充実に充てるよう求めています



トイレプロジェクト 38億円

- きれいで安心して使えるトイレ整備等に重点的に取組む
- ・防災拠点施設(携帯トイレ備蓄含む) 3億円 6施設
 - ・観光客受入れのために県立公園等 3億円 20施設
 - ・県立学校等の県有施設 32億円 114施設

県民の安全・安心のためのインフラ等整備

- (4年度当初予算編成で後年負担分120億円を基金積立)
- ・急傾斜地崩壊対策(県単) 23億円
 - ・交通安全施設整備(摩耗した道路標示等) 50億円
- この他、国の要件緩和を受け急傾斜地の施設整備を更に加速

今後本定例会中に各委員会での質疑等を重ねより良い予算となるよう取り組んでいきます!

新型コロナウイルス関連予算は2類前提で編成

国は5月8日からコロナを「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針を決定しましたが、県は2類相当が続く想定で予算案を編成。医療従事者の確保や勤務環境の改善は県独自で継続します。

感染症法上の分類と主な措置	2類相当	5類相当
	新型コロナウイルス	季節性インフルエンザ等
入院勧告	○	×
就業制限	○	×

神奈川県 の役割について考える！

県は、年間約4兆円の予算で、約3,000の事業を行っています。2月は年度(4月~3月)をとおしての予算を決める大切な時期です。黒岩県政3期目もわずかとなりました。改めて県の役割・県の事業に目を向けてみます。



県の役割 都道府県が処理する事務は次の3つです(地方自治法第2条第5項)

① 広域事務

複数の市区町村にまたがる広範な区域において処理することが求められる事務



② 連絡調整事務

国等や都道府県等と市町村との間の連絡調整、市町村相互間の連絡・連携・調整 など



③ 補完事務

その規模又は性質において一般の市町村が処理することが適当ではないもの



県は地域と国を繋ぐ大事な役割を担っています。市町村や住民にとっても重要です。まずご相談ください！

「県の機関ってどんなことをしているの？」とよく聞かれます。そこで…

県央地域の県の主な機関と要望した内容をご紹介します

警察

信号機の設置、道路標示補修

コロナ禍での登山ブーム。県内の山岳遭難は増加傾向。県警に対し要因を分析し工夫を要望。

愛川町中津太田交差点に歩行者用信号機設置が実現！

土木事務所

道路・河川対策

一般質問で古在家バイパスの早期開通と情報公開を求め、2023年4月に供用開始予定

河川対策には多くの主体が関わることが大切。佐藤は4年間県に訴え続け「流域治水」への転換が示された

県政総合センター

ナラ枯れ、豚熱対策

ナラ枯れの取組みを県に求め粘着シートの配布が実現。佐藤自らも実践しました！

県立学校

医療的ケア児の通学支援について県に提言。令和5年当初予算案で福祉車両の対象校が拡大

保健福祉事務所(保健所)

新型コロナ対策、食品衛生 など

社会教育施設

愛川ふれあいの村は指定避難所指定が平成31年に外れ耐震化が急がれる。令和5年度当初予算案で体育館耐震補強工事に係る実施設計等が計上。

児童相談所

神奈川県厚木児童相談所

県議会議員の役割と選挙区変更を考える

県議会議員は県民全体の代表(広域代表)であるとともに、地域代表的な側面もあります。県央地域では厚木市・愛川町・清川村選挙区が定数3となり、昭和49年以来約半世紀ぶりの厚木市との合区の選挙が行われますが、合区になることがまだまだ知られていません。今回の合区が県に意見を反映する意味合いを皆様に考えていただく機会になればと思います。



厚木市の皆様のご相談が急増中！

厚木市長選に出馬するため厚木選出の県議が2人辞職。県央地域のご相談が増えています。この時期は当初予算の審議をする大事な期間。お困りごとがありましたらご連絡ください！

事務所へ随時ご連絡ください

佐藤けいすけ事務所 記事は活動の一部です
〒243-0301 愛甲郡愛川町角田2387 SNS等随時更新
TEL046-281-0919 FAX046-281-1578 していますので
ご覧ください
✉ keisuke.sato.office@gmail.com



県政に関わろう パブリックコメントや審議会への参加など
県議会議員を選ぶこともその1つです！